

# 地域活動デザインスタジオ

2022～2024年度@新地町

担当教員：鈴木亮平（新領域創成科学研究科・非常勤講師、NPO法人urban design partners balloon）  
寺田 徹（新領域創成科学研究科・自然環境学専攻・准教授）



東京大学 大学院新領域創成科学研究科 環境学研究系  
環境デザイン統合教育プログラム  
Integrated Environmental Design Program



# 受講生

2022年度

11名



2022.7.10 潮風フェス参加

社会基盤 1、都市工学 1、国際協力 1、  
環境システム 1、人間環境 4、  
社会文化 2、公共政策 1

2023年度

9名



2023.7.7 提案発表+ワークショップ

経済 1、社会基盤 1、人間環境 3、  
社会文化 4

# スタジオの進め方

- 1 学生が新地町に入り込み、地元の方への聞き取りやフィールドワークを行う
- 2 グループワークを行い、地域が抱える課題を整理する
- 3 地域課題解決のための具体的なアクション（＝地域活動）を提案する
- 4 提案を地域住民に提示し、ワークショップ等と通じてフィードバックを経たのち、学生と地域住民が協働してアクションを実践する

4月

～

7月

8～10  
月



# 1 フィールドワーク・聞き取り



# 2 グループワーク

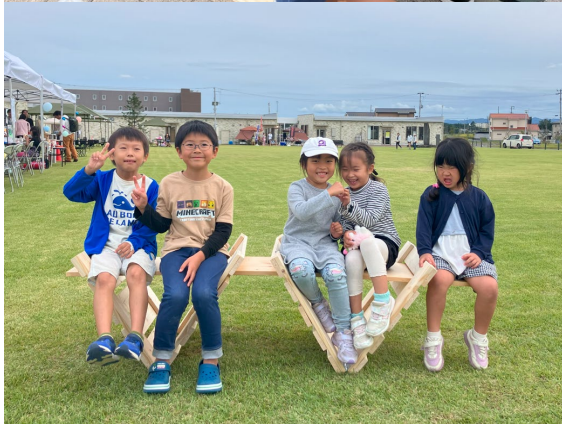




3

4

# 活動提案・ワークショップ・アクションの実践



# 拠点としてのUDCしんち





# 2022年度（昨年度）

## 10 min. stay

駅前のちょっとした  
待ち時間を使った  
まちづくり活動

10分ステイ第一弾 「立ち読み」



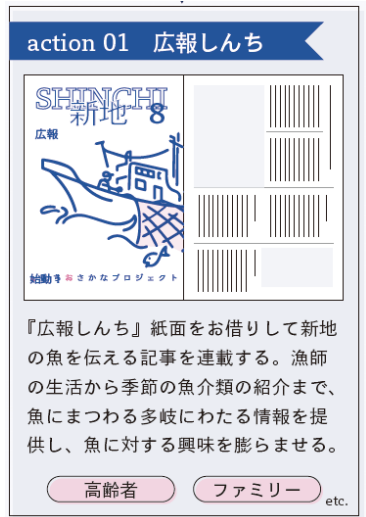
## 新地ウォーク

まちあるきを行い、  
新地の魅力を  
マッピングし共有する



## おさかなプロジェクト

新地の海産物の魅力を  
地元へ伝え、地産地消の  
土台をつくる



# 10min stay



～駅前が日々の生活の一部に～

新地駅前が、より使いやすく、より滞在したくなる場所にアップデートされていく。  
駅前ですすまよった時間が日常生活となるような意識の変化は、やがて緩やかなコミュニティを形成し、  
地域住民が主体的に環境を整えていく習慣を育む。

## 魅力的な新地駅の現状

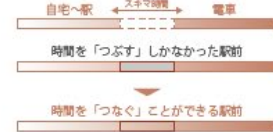
## background



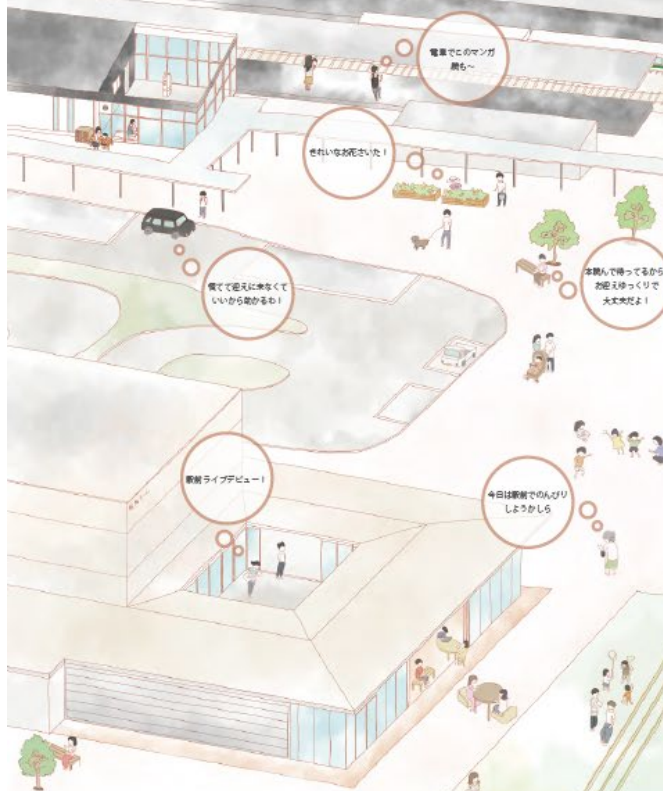
震災後、新地駅前が整備されたが、町民の多くは自動車を交通手段として選択しているため、滞在人口は非常に少ない現状にある。  
個室空間を提供する自動車は、人々の偶然の出会いを遮断し、繋がりを固定化する要因にもなっている。  
一方で、町内人口を考慮すると1時間に1本くる電車は比較的安全性が高く、充実した駅前と合わせて人々をひきつけるポテンシャルを持つ。

## 時間をつなぐ10分ステイ

## concept



駅の利用者を中心に10分ほど滞在できるコンテンツを導入する「10分ステイ」を提案する。  
本を読む、コーヒーを飲む、焼き鳥を食べるなどの10分でできるアクティビティにより駅前で豊かな時間が過ごせる。  
駅前の充実した施設は、個人的な利用においてオーバースケールであり、現状で余している。空間を分断し、様々な設えを施すことで駅前が少しずつ使いこなされる。



## 10分ステイ第一弾「立ち読み」

## proposal & design

## 10分ステイメニュー



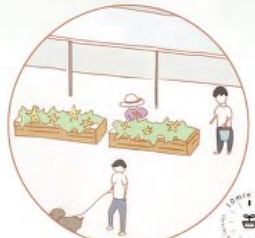
### ■ターゲット

駅利用者、送り迎えの人、地域住民

- ① マンガや雑誌20冊を含め、60冊ほど備えた本棚
- ② 朝は駅舎、以降は競海ホールに置き、行動様式に合わせたフレキシブルな運用を行う
- ③ 感想用紙やおりを備え、利用者同士の親しいコミュニケーションを促す

### ■実施方法

ブロックを組み合わせたキャスター付きの本棚  
関係者が時間帯にあわせて本棚を移動させる  
協賛企業から調達した本、各所で不要となった本を置く



駅前に草花の彩りが持ち込まれ、お手入れされる。  
皆で共同管理する花壇や自主的に持ち寄った緑木鉢で、  
季節の移ろいを感じる事ができる。



競海プラザの飲食店からコーヒーや焼き鳥などを  
テイクアウトして滞在時間を味わう。  
将来的に、テイクアウトメニューが増えたり、休日には  
フードトラックが訪れたりするなど選択肢が多様になる。



滞在時間に軽い運動ができるようになる。  
一緒にエクササイズをするコミュニティが生まれる。  
また、新しい健康グッズなどが試せる場となることで、  
電車を利用しない人も駅を訪れるようになる。

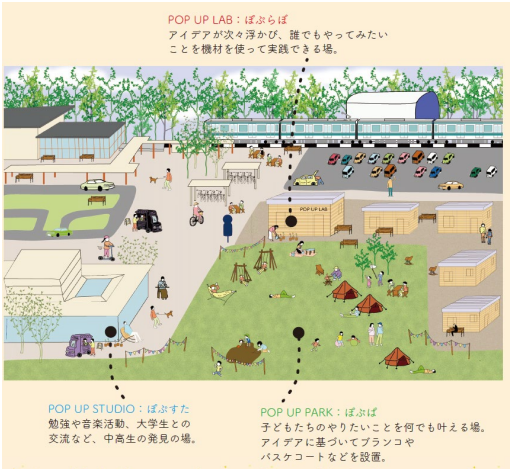




# 2023年度 (今年度)

## POP UP AREA

駅前エリアを  
アイデアが生まれ、  
実践できる場に



## 新地体験

海、里、山を巡って  
素材を集め、作品をつくる



## 新地王

海釣り公園の情報を  
アプリに集約発信





# 灯そう、アイデアの光

《《UDC・観海広場・観海ホールを対象とした  
「POP UP AREA」デザインの提案》》

## -Concept-

💡 デザインコンセプト 💡

「ちいさな光を見つけ、生み出し、つなごう」

POP UP AREA は子どもから大人まで、誰でも自由に使える場所です。  
LAB の機材を使い、PARK や STUDIO で活動すると、  
やってみたいことがきっと見つかります。  
POP UP AREA のスタッフが、みなさまのアイデアをつなぎ、  
ふくらませて、次のチャレンジへつなげていきます。

## -Back ground-

💡 新地町のいま 💡

○海里山のまわりがある街だが、文化的・心理的に分断が見られる  
○街のために活動がんばっている人はたくさんいるが、  
情報共有など、横のネットワークが不十分

## -Vision-

💡 POP UP AREA の役割 💡

- ①駅前が賑わう日常の風景をつくること  
交流人口や世代間交流の増加を期待。だれもが使う駅前を地域の拠点にする。
- ②小さなやってみよう！を吸い上げ、つなげること  
ひとりでは難しい規模の活動を生みだし、つなげると街全体のビジネスの情報網ができる。
- ③役所の手続きなどノウハウを共有して、住民のサポートをすること  
やりたいことを諦めなくてよい街にする。

まちの方々の心をつなぐ拠点となる

生まれた光をサポートする場となる

## POP UP LAB：ぼぶらぼ

アイデアが次々浮かび、誰でもやってみよう  
ことを機材を使って実践できる場。



POP UP STUDIO：ぼぶすた  
勉強や音楽活動、大学生との  
交流など、中高生の発見の場。

POP UP PARK：ぼぶぱ  
子どもたちのやりたいことを何でも叶える場。  
アイデアに基づいてプランコや  
バスケットなどを設置。



詳しい活動は  
POP UP AREA  
パンフレットへ



# -Approach-

## 【1】POP UP AREA でのとりくみ



機材を設置  
飲食コーナー  
大看板をつくる  
意見ボードの設置

×



イベントの開催  
挑戦をサポートする

×



大学生と  
オンラインで交流

## 【2】仕組みづくり

《まちの未来を描き、横のつながりをつくる》

1. “マスターコンセプト” を策定する
2. まちづくり懇談会をデザインする

《住民と役場の距離を縮める》

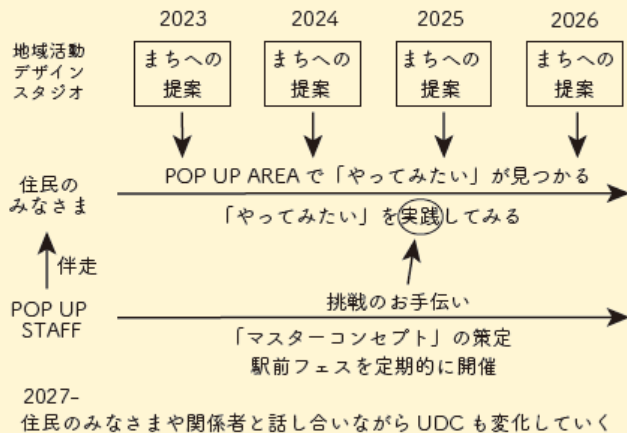
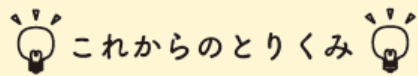
まちづくり懇談会やイベントで、住民のみなさんと役場の方々の交流を図り、小さな意見をすり合わせる

《SNS での発信》

まちづくり懇談会やイベントの様子を Instagram で発信



# -Scheme-



# -Action-

## 第1回駅前フェスを開催!







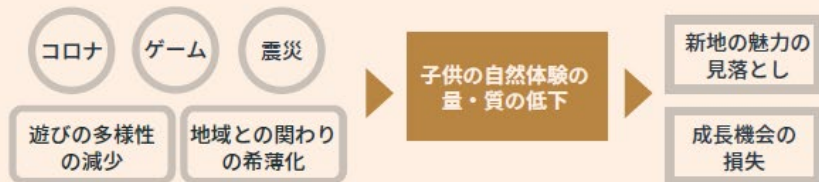


# Adventure in Shinchi



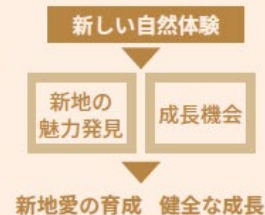
栗原勇太 杉山錬 吉川真由

## Background- 自然体験の量と質の低下



## Vision- 新しい自然体験!!

新たな視点や方法により新地の自然を再び見てみることで、今まで気づけなかった新地の魅力を発見し、成長機会が得られる。



## Concept- 新<sup>地</sup>体験 ~ from 0 to M ~

### Rally × Adventure + Connection

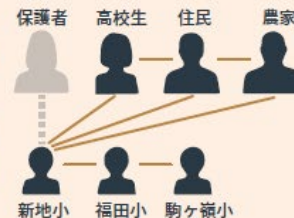
海 (Ocean)、里、山 (Mountain) の各エリアで自然体験を行い、0 から M までを 1 日で回る。

自然体験の **量** の増加

自然体験の過程で素材を集める。そして集めた素材で新地ならではの作品を作り思い出と共に残す

自然体験の **質** の向上

大人や高校生も参加することで、子供と地域の住民との斜めのつながり生まれる。小学校を超えた子供同士、体験に協力する住民同士の横のつながりも生まれる。





## Program- 新<sup>ち</sup>体験のメニュー

どのメニューでも海、里、山の3エリアを回って素材を集める。海では漁港での漁業見学や海水浴場での貝拾い、里では農業体験、山では鹿狼山での植物探しなどのアクティビティができ、いつもと違った視点で自然に触れることができる。



## Action- ミニ新地をつくろう！

新地の海・里・山の自然スポットを回りながら新地ならではのテラリウム「ミニ新地」をつくるツアーを実施します。

日時：9/23(土) 9:00-12:00

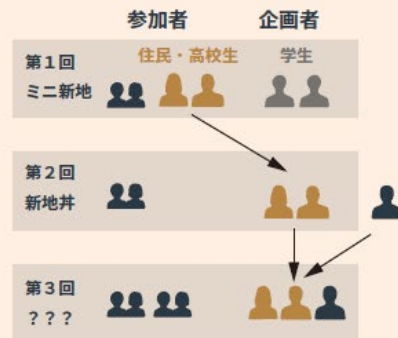
参加者：新地町の小学生 10人以下

引率：大学院生 3人、鈴木先生、新地の住民・高校生

9:00	新地駅集合・ガイダンス
9:30	海水浴場で貝殻拾い
10:00	
10:30	川上種苗園で菊を摘む
11:00	鹿狼山で素材集め
11:30	まあるの庭でテラリウム作り
12:00	

## Scheme- 継続のために

第2回以降は第1回に参加した住民や高校生が企画側に回ることで、本イベントのノウハウを引き継いでいけたらと考えています。









全3回の最終回

# 来年度（2024.4-）のスタジオ

- 1 受講生を絞り、少数精鋭に
- 2 UDCしんちとして、スタジオ終了後も取り組めそうなアクションを提案する
- 3 今まで以上に地元の方と一緒に動く。しっかりと地元の活動に入って体験する時間をしっかり取る

引き続きよろしくお願いいたします！